

微小生物の取水取り込み影響(3) —動物プランクトンの生残率と要因別影響度—

海生研では、微小生物の取水取り込み影響を調べるため、発電所の運転条件の異なる時に、プランクトンを採集し生残率を比較しました。下図のとおり、動物プランクトンでは、いずれの条件下でも放水口での生残率の低下は、殆どみられませんでした。

また、ハンドリングを含む自然死亡、機械的影響、化学的影響及び昇温影響の4つの要因ごとに影響度を解析した結果、動物プランクトンではいずれの要因も影響度が数%と、ごく僅かでした。

次回は、魚卵・仔稚魚の結果についてご紹介します。

(事務局 研究企画調査グループ 山田 裕)

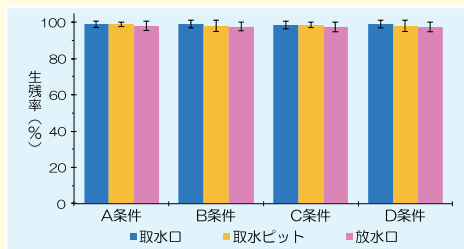


図 異なる条件下での動物プランクトンの生残率の比較 (南方海域の例)
A、Bの条件下では塩素は注入されていない。A、Cの条件下では発電されていない。B、Dの条件下では発電中である。

表 要因別に求めた動物プランクトンへの影響度 (%)

要因	自然死亡	機械的影響	化学的影響	昇温影響
北方海域	3	2～3	0～1	-1～1
中部海域	2	1～2	0～1	1～3
南方海域	1	1	1	1

海生研は、発電所の取放水等が海の環境や生息する生物に与える影響を科学的に解明する調査研究機関として、昭和50年に財団法人として設立されました。

平成24年4月からは公益財団法人に移行しました。科学的手法に基づき、エネルギー産業等における沿岸域利用の適正化と、沿岸海域等の自然環境、水産資源、漁場環境の維持・保全に寄与することを目的として、これまで以上に長期的な展望を踏まえた計画的な学術調査研究を推進し、成果を公表してまいります。

海の豆知識 第70号

平成29年1月 発行

発行所

公益財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル7階 ☎(03) 5225-1161
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>



かいせいけん

海の豆知識

Vol.70

★★★ 魚名の由来 ★★★ 〈その8〉



公益財団法人
海洋生物環境研究所

魚名の由来

〈その8〉

——酉(鳥)にちなむ魚たち——

海とその生物にまつわる名前の由来についてお話ししましょう。
今回は、今年の干支である酉(鳥)にちなんだ魚をご紹介します。

1 「トリカジカ」

トリカジカ(学名:*Ereunias grallator*)は、カサゴ目トリカジカ科に属する深海性の魚類で、主に相模湾や駿河湾、熊野灘、高知沖など、太平洋沿岸から東シナ海の水深200~1,000mの砂泥底に生息しています。体長30cm程度で、大きな頭部に対して体は細長く、特に尾部にかけて急に細くなっています。また深海性の魚らしく、大きな目をしています。背ビレと尻ビレは、黒地に白の帯が入っています。横から見た頭部の形が、鳥(ニワトリ)に似ていることから、その名がつけました。

グロテスクな見た目に反して、綺麗な白身は上品な旨味があり、刺身や塩焼きなど、大変美味しいそうです。従来、底引き網に時々混獲される程度であるため、一般には流通せず、船上で捨てられるか、せいぜい地元の漁師さんの口にしかりませんでした。しかし最近では、地元でしか味わえない深海魚を売りにした料理店がひそかなブームとなり、そのようなお店のメニューに上がることもあるようです。機会があったら、是非一度お試しください。

3 「イサキ」

イサキ(学名:*Parapristipoma trilineatum*)は、スズキ目イサキ科に属する魚で、本州中部以南から南シナ海の沿岸、藻場などの岩礁域に生息しています。体長30cm程度の細長い紡錘形で、やや側扁した形をしています。幼魚には背側に淡褐色の縦縞がありますが、成長につれてこの縞模様は薄れて、成魚ではややオリーブがかった褐色になります。夜行性で、昼間はやや深場の海底付近に潜み、夜になると表層付近まで遊泳します。

このイサキ、漢字では一般に「伊佐木」又は「伊佐幾」を用いま



2 「クギベラ」

クギベラ(学名:*Gomphosus varius*)は、スズキ目ベラ科に属する魚で、南日本から中西部太平洋やインド洋に分布し、水深35m以浅の比較的浅い岩礁域やサンゴ礁域に生息しています。体長は20~30cm程度で、長楕円形でわずかに側扁した姿をしています。特徴的なのは管状に長く突き出た吻(口先)で、成長に伴い伸長していきます。

このクギベラ、英語ではバードラス(Bird wrasse、鳥のようなベラ科の魚)と呼ばれています。岩やサンゴの間に隠れた餌となる小型の甲殻類など食べる様が、鳥が餌をついばむ様子に似ていることから、その名がついたようです。愛らしいその口先は、入り組んだ枝サンゴの中や狭い岩の隙間から餌を捕えるのに、とても都合が良くできています。

すが、「鶏魚」とも表します。これは、ピンと立てた背ビレがニワトリの鶏冠に似ていることに由来するようです。英語でもチキングラント(Chicken grunt、鶏のようなイサキ科の魚)と呼ばれています。

ちなみに、西日本以南から西太平洋やインド洋の河口域、汽水域に生息するシマイサキ(学名:*Rhyncopelates oxyrhynchus*)は、名前に「イサキ」とありますが、こちらはスズキ目シマイサキ科に属しており、イサキとは別の魚です。